

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）  
 タイプA 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	東京医科歯科大学
事業名	医歯理工学を網羅した革新的開発を推進・統括する physician scientist / scientific physician 育成拠点事業
事業責任者	東京医科歯科大学 教授 小池 竜司
事業の概要	
<p>本学は臨床研究の実施体制強化を中期財務計画の重点事項に掲げており、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担う病院機能の強化整備を進めている。2024年10月には東京工業大学との統合によって東京科学大学病院として始動するにあたり、医歯理工連携の要となる研究部門である医療工学研究所と病院内のリサーチホスピタル部門の設置を予定している。本事業では本学の重点基盤整備とともに人材育成機能を強化し、大学院生を含む若手医師や医学生がリサーチホスピタルをプラットフォームとして臨床研究に参画する体制とカリキュラムを構築する。それにより従前より本学がミッションとしている、臨床現場を勘案しつつ先端的基礎研究に取り組む physician scientist と本質的な科学的理解のもとで自ら臨床研究を遂行できる scientific physician の継続的な育成拠点を確立することを目標とする。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○申請大学の強みを生かした内容になっており、精神神経・口腔・創生医学と分野が広範囲に分散されている点も、大学の幅広い診療科で臨床研究を活性化していく本事業の狙いに合致している。</p> <p>○医療技術開発やエビデンス構築を推進し、医療全体の進歩への貢献を目標としており評価できる。</p> <p>○教育支援者として新たにクラークシップ・アシスタント（CA）を配置するアイデアは新規性があり、運用中のCDやCTの補佐として位置づける構図も組織運営として実効性が高い。</p> <p>○CC-EPOCとPG-EPOCの連結による学修成果評価システム構築は評価できる。</p> <p>○ヘルスサイエンス R&amp;D センター（HeRD）への増員配置などは適切で、臨床研究において、他の大学や研究者、企業等の事業機関を牽引することが期待できる。また、定期的情報発信等は情報提供先を大幅に増大できる方法であり優れている。</p> <p>○OPMDAとの包括協定締結等、拠点としての働き、診療データのデータベース化は発展が期待される。</p> <p>○院内で配布している iPhone との連動や、病院業務のDX化の推進は、電子カルテへのアクセス方法が多様化するという意味で、医師の働き方改革に影響を与える可能性があり、実効性が高い。</p> <p>○学内外の設置部門が多施設共同研究へ展開できる体制が構築されている点が評価できる。</p> <p>○補助期間終了後の取組の継続に関して、具体的な計画が示されており、実現可能性も高い。</p> <p>○経年的に自己負担額を増額させていることは評価できる。</p> <p>●TA、RAなど大学院生や学部生に対する支援がより充実するよう期待する。また、TAやRAの具体的な実習への介入時期や学外の指導医へのFDの実施時期を設定して取り組むことが望ましい。</p> <p>●事業のアウトカム（論文数や大学院生数、医行為の経験率等）について、具体的な数値目標を明示して取り組むよう期待する。</p> <p>●コア・カリキュラムの該当内容について、事例を通じた学修をどのように進めていくのか、より明確にすることが望ましい。</p> <p>●医師の労働（診療）時間短縮に向けた具体的方策や残業時間の規制目標など具体的な計画を立てて取り組むことを期待する。</p>	